



患者さんの苦痛へ適切に対応し、 苦悩ある人に寄り添う

疾患に関連する痛み、食欲不振、悪心・嘔吐、呼吸困難、倦怠感、不安、抑うつ、せん妄、不眠などの身体症状・精神症状などの問題を適切に評価・対応することにより、Quality of lifeの改善をめざす取り組みを行う。

代表的診療対象疾患

身体症状・精神症状のあるがん患者（身体症状のある非がん患者も限定的に診療）

診療体制と治療実績

入院診療

身体症状・精神症状のあるがん患者さんを対象とし、がんサポートチーム（緩和ケアチーム）として対応している。がんサポートチームは、身体症状担当医師（緩和医療医）、精神症状担当医師（精神科医）、看護師（がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師）、薬剤師（緩和薬物療法認定薬剤師）、医療ソーシャルワーカーなどから構成されている。依頼用紙の受け付け後、できるだけ早く診療することに努めている。必要に応じて継続的に診療している。また、ご家族のサポートや療養場所の支援の依頼も可能な範囲で受け付けるようにしている。また、身体症状のある非がん患者さんにおいては、限定的に診察している。

2013年度の依頼総数は422人であり、依頼内訳は、①痛み(36%)、②不安・抑うつ(29%)、③不眠(7%)、④せん妄(5%)、⑤倦怠感(4%)、⑥悪心・嘔吐(4%)、⑦腹部膨満感(2%)であった。

外来診療

身体症状・精神症状のあるがん患者さんで当院の診療科に通院中の患者さんを対象としている。入院中にごんサポートチームで診療した患者さんにおいて、退院後も必要に応じて継続的に診療する。また、他の医療機関からの依頼は、適宜受け入れる予定である。

地域医療の取り組み

地域の緩和ケアチーム・緩和ケア外来・緩和ケア病棟などとの連携に努めている。今後の取り組みとして、①患者さんの身体的苦痛や心理社会的苦痛などのスクリーニング、②緊急緩和ケア病床の確保（緊急入院体制の整備）、③がん患者カウンセリング、④専門相談支援、

⑤地域連携支援、⑥教育・研修、⑦診療情報の集約・分析などがある。また、京都大学緩和医療研究会を立ち上げている。緩和医療に関する講演会や事例検討などを定期的で開催して、教育・研修・研究の場を提供する。